

## 新編武蔵風土記稿

しょうへいざかがくもんじょちしらべじよ

作者:昌平坂学問所地誌調所

成立:文政13年(1830) ※年末(1831)天保に改元

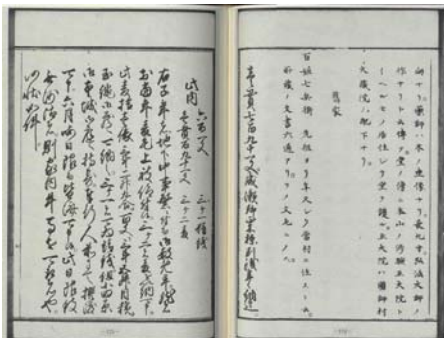


## 解題

## Keyword

- 官撰地誌
- 武蔵国
- 古風土記
- 松平定信
- 林述斎
- 間宮士信
- 八王子千人同心
- 「武州文書」
- 「御府内備考」
- 「大日本地誌大系」
- 蘆田伊人

江戸幕府の昌平坂学問所地誌調所が編纂した官撰地誌。近世後期の武蔵国についての最も基本的な史料である。武蔵国のうち橘樹・久良岐・都筑の3郡が現在神奈川県となっている。



(影印本)『新編武蔵国風土記稿 多摩郡』文献出版  
多摩郡成瀬村 本文と古文書の影写

## ■ 成立経緯

江戸幕府は創始者の徳川家康以来、学問や古典を重視する政策をとり、多数の官撰書を編纂してきた。官撰地誌は、奈良時代の勅撰風土記(古風土記)にならって新たに全国の風土記編纂を意図したもので、その構想は寛政期の老中・松平定信に始まるとされる。寛政9年(1797)幕府は江戸湯島に官学・昌平坂学問所を設立し、享和3年(1803)には地誌編纂部局として「地誌調所」を設置した。文化7年(1810)学問所を統括する大学頭(だいがくのかみ)林述斎(はやし・じゅっさい)は幕府に新編諸国風土記の編纂を建議し、事業はまず武蔵国を対象に開始された。

完成本巻末の名簿によれば、編纂に従事した地誌調所役人は間宮士信(まみや・ことのぶ)ら3人の頭取を中心に合計31人に上り、廻村調査や地元提出の書上帳をもとに執筆・編集に当たった。また、多磨・高麗・秩父の3郡については八王子千人同心が調査と執筆を行い、同じ名

簿に別に11人の名前がある。編纂は長期にわたり、文政11年(1828)に原稿が完成、これに補訂を加えて同13年、着手から20年を経て浄書本を将軍に献上した。

## ■ 内 容

浄書本の内題は『新編武蔵風土記』、外題は『新編武蔵国風土記稿』である。明治になって内務省地理局が活字翻刻本を『新編武蔵風土記稿』の題で刊行し、以後の出版でもこの「国」を省いた書名が多く用いられているが、「国」を入れた書名を正当とする見解もある。書名の冠称「新編」は古風土記に対する呼称であり、末尾の「稿」は、本書が「国志」の材料としての準備的著作であることを意味する。国志は中国の「方志」(地方地誌、部門別編成)にならったもので、地誌調所はこれを目標としながらも、古風土記と同じく地域別編成の地誌編纂にとどまったといえる。

首巻と265巻から成る。巻之1から8で武蔵国全般について概説し、巻之9以下で全22郡の地誌を村(町・宿・新田)単位で記述する。各郡については、最初に絵図を置き、郡の地勢・沿革・地域名(郷・庄・領等)・村数・山川・産物等を解説し、次に村ごとに位置・戸数・領主・山川・社寺・旧跡・人物等を詳述する。本文は漢字仮名交じりで平易に書かれ、記述は出典を示すなど客観的で、詳細で正確という評価を得ている。また、絵図のほか風景・社寺・古器物等の挿絵が収録され、さらに、地誌調査と並行して収集された古文書類(『武州文書』(#38))のうち、本文に関係するものが原文のまま引用されている。

なお、武蔵国のうち「御府内」といわれた江戸城及び江戸市中は本書には収録されていない。これは地誌調所が別に『御府内風土記』(これについては焼失、未成立の両説あり)を編纂しようとしていたためで、その資料集に当たる『御府内備考』が文政12年に完成し、現存している。

## ■ 諸 本

浄書本255冊は現在国立公文書館内閣文庫が所蔵。これは将軍献上本と同一の完成本で、昌平坂学問所が保管していたものとみられる。この影印版が1990年代に文献出版から刊行されたが、同社の解散により完成せずに中断している。活字翻刻本は明治17年(1884)内務省地理局から和装本80冊として刊行され、本書が初めて一般に知られるところとなった。以後の活版本はすべてこれを底本としている。ただし、内務省本は誤読・誤植が少なくないとの指摘があり、浄書本では原形のまま掲載されている古文書の解読でその傾向が強いとされる。また、内務省本の絵図・挿絵は浄書本の模写であり、原画とはかなり異なっている。その後の出版では、内務省本をそのまま複製したもの(歴史図書社、千秋社)と、これにある程度の編集・校訂を加えたもの(雄山閣、相武史料刊行会)がある。特に雄山閣の『大日本地誌大系』本は、戦前の第1期で内務省本引用の古典籍・古文書についてある程度原文との校

合を行い、平成の第4期では内閣文庫本による校訂も行っている。

## 「大日本地誌大系」

明治30年代設立の日本歴史地理学会は、近世地誌の翻刻・刊行を企画し、大正前期に『大日本地誌大系』14冊を刊行したが、この事業は未完に終わった。昭和に入り出版社・雄山閣が改めて刊行に着手し、当初から編輯に参画していた蘆田伊人(あしだ・これと)が中心となり、昭和8年(1933)『大日本地誌大系』全40巻が完結した。武蔵・相模の両『風土記稿』のほか『御府内備考』『新編会津風土記』など主要な近世地誌を網羅した叢書である。雄山閣はこれを第1期として戦後も復刊を繰り返し第4期に至っているが、構成や巻次は各期で複雑に変化している。現在の編成は全48巻と索引篇2巻の50冊である。

## 検索手段

大部の書であり、活用には検索手段が欠かせないが、まだ十分なものがない。大日本地誌大系本は第1期以来、要目(細目次)を各巻に付し、その後も簡単な新旧地名索引、字名集覧などを追加してきた。第4期で各巻にかなり詳細な新旧地名対照表を付すとともに、別冊の索引編で地名・人名・寺社・史料名等からの検索を可能にした。ただし、この索引は12の分冊単位の編成なので全体を1度には引けず、項目数の点でも限界がある。これに対して、多摩郡の部分に限定されるが、三多摩郷土資料研究会編集の索引は、浄書本・大日本地誌大系本・千秋社本の3種に適用可能で、非常に精細なものである。



## 構成

首巻 例義(前書き)総目録(各巻の題名一覧)

巻之1 総国図説(国絵図とその解説、各地の産物、国名の由来等)

巻之2～4 建置沿革(徳川家康江戸入府までの武蔵の歴史)

巻之5 任国革表(古代から南北朝期までの国司等の補任表)

巻之6・7 山川 名所附(武蔵野・隅田川等に関する和歌・詩文)

巻之8 芸文(古典籍・古記録から抜粋した武蔵国に関する記述)

巻之9～19 豊島郡(としまぐん)(119村。東京都新宿区・文京区・台東区・渋谷区・豊島区・板橋区・北区・荒川区の全域、港区・練馬区の一部)

巻之20～38 葛飾郡(かつしかぐん)(290村。東京都葛飾区・江戸川区・墨田区・江東区・埼玉県三郷市・吉川市・栗橋町の全域、幸手市・杉戸町・鷺宮町の大部分、春日部市・松伏町の一部)

巻之39～57 荏原郡(えばらぐん)(95村。東京都目黒区・品川区・大田区の全域、港区・世田谷区の一部)

巻之58～72 橘樹郡(たちばなぐん)(130村。横浜市鶴見区・神奈川区の全域、

- 川崎市川崎区・幸区・中原区・高津区・宮前区・多摩区の全域、横浜市港北区・保土ヶ谷区の大部分、横浜市西区の北西部、川崎市麻生区の一部)
- 卷之73～80 久良岐郡(くらきぐん)(54村。横浜市中区・南区・磯子区・金沢区の全域、西区の南東部、港南区の東部)
- 卷之81～88 都筑郡(つづきぐん)(73村。横浜市緑区・青葉区・都筑区・旭区の全域、川崎市麻生区の大部分、横浜市保土ヶ谷区・港北区の一部)
- 卷之89～128 多磨郡(たまぐん)(433村。東京都三多摩地域・中野区・杉並区の全域、世田谷区・練馬区の一部)
- 卷之129～134 新座郡(にいくらぐん)(34村。埼玉県和光市・朝霞市・新座市の全域、志木市・東京都練馬区・西東京市の一部)
- 卷之135～155 足立郡(あだちぐん)(434村。東京都足立区・埼玉県川口市・鳩ヶ谷市・蕨市・戸田市・上尾市・桶川市・北本市・伊奈町の全域、さいたま市・草加市・鴻巣市の大部分)
- 卷之156～175 入間郡(いるまぐん)(257村。埼玉県所沢市・ふじみ野市・富士見市・三芳町・毛呂山町の全域、川越市・狭山市・入間市・坂戸市・越生町の大部分、日高市・志木市・鶴ヶ島市・東京都瑞穂町の一部)
- 卷之176～185 高麗郡(こまぐん)(113村。埼玉県鶴ヶ島市・日高市の大部分、飯能市の東部、川越市・狭山市・入間市・坂戸市の一部)
- 卷之186～195 比企郡(ひきぐん)(159村。埼玉県東松山市・川島町・滑川町・嵐山町の全域、鳩山町・小川町・ときがわ町の大部分、川越市・越生町の一部)
- 卷之196～198 横見郡(よこみぐん)(46村。埼玉県吉見町の全域)
- 卷之199～218 埼玉郡(さいたまぐん)(424村。埼玉県八潮市・越谷市・蓮田市・久喜市・加須市・羽生市・行田市・宮代町・白岡町・菖蒲町・騎西町・大利根町の全域、春日部市・北川辺町の大部分、草加市・さいたま市・鴻巣市・熊谷市・鷲宮町の一部)
- 卷之219～221 大里郡(おおさとぐん)(44村。埼玉県熊谷市の南部)
- 卷之222～225 男衾郡(おおすまぐん)(34村。埼玉県寄居町の大部分、深谷市・熊谷市・小川町の一部)
- 卷之226～229 幡羅郡(はらぐん)(59村。埼玉県熊谷市の北部、深谷市の一部)
- 卷之230～234 榛沢郡(はんざわぐん)(84村。埼玉県深谷市の大部分、本庄市・寄居町の一部)
- 卷之235～237 那賀郡(なかがん)(14村。埼玉県美里町の大部分、本庄市の一部)
- 卷之238～242 児玉郡(こだまぐん)(65村。埼玉県本庄市・神川町の大部分、美里町の一部)
- 卷之243～245 加美郡(かみぐん)(33村。埼玉県上里町の全域、神川町の一部)
- 卷之246～265 秩父郡(ちちぶぐん)(86村。埼玉県秩父市・横瀬町・小鹿野町・皆野町・長瀨町・東秩父村の全域、飯能市の西部、ときがわ町・寄居町・神川町の一部)
- 附録 編輯姓氏(編纂に従事した地誌調所役人及び八王子千人同心の名簿)  
 ※各郡に注記した村数は本文記載の数。現行市町村の該当地域は大体の範囲を示す



## 史料本文を読む

### <影印本>

- 『新編武蔵国風土記稿 多摩郡』全15冊 文献出版 1995-97 [K291/485]  
※文献出版からは豊島・葛飾・荏原・新座・足立各郡の影印本も刊行されている。

### <翻刻本>

- 『新編武蔵風土記稿』全80冊 内務省地理局 1884 [K291/130 ※一部欠あり]
- 『新編武蔵国風土記稿』全12冊 蘆田伊人編 雄山閣 1929-33(『大日本地誌大系 5~15、35』[第1期]) [291.08/2]
- 『新編武蔵風土記 橘樹郡・久良岐郡・都筑郡』相武史料刊行会1930 [K291/474/4]
- 『新編武蔵風土記稿』全12冊 蘆田伊人編 雄山閣 1957-58 (『大日本地誌大系 1~12』[第2期]) [291.08/6]
- \*『新篇武蔵風土記稿』全8冊 歴史図書社 1969
- 『新編武蔵風土記稿』全12冊 蘆田伊人編集校訂 雄山閣 1972 (『大日本地誌大系 7~18』[第3期]) [K291/131]
- 『新編武蔵風土記稿 三多摩編』全4冊 千秋社 1981 [291.36/134]
- 『新編武蔵風土記稿 横浜・川崎編』全2冊 千秋社 1982 [K291/130A/1・2]
- 『新編武蔵風土記稿 別巻総説編』千秋社 1982 [K291/130A/3]  
※千秋社からは上記3点のほか「東京都区部編」「埼玉編」も刊行されている
- 『新編武蔵風土記稿』全13冊 蘆田伊人編集校訂 根本誠二補訂 雄山閣 1996(『大日本地誌大系 7~18、索引篇』[第4期]) [K291/131A]



## 史料についてさらに知る－参考文献－

- ◆小沢正弘「新編武蔵国風土記稿調方出役の出張調査について」(『地方史研究』vol. 18(5) 地方史研究協議会 1968 [Z210.05/4])
- ◆福井保「新編武蔵風土記」(『江戸幕府編纂物 解説編』福井保著 雄松堂出版 1983 [027.1/1/1])
- ◆白井哲哉「武蔵国久良岐郡の「地誌御調書上帳」」(『神奈川地域史研究』(7) 神奈川地域史研究会 1988 [K20/7])
- 『新編武蔵風土記稿索引：多摩の部』三多摩郷土資料研究会編 たましん地域文化財団 1997 (多摩歴史叢書 5) [K291/494]
- ◆岸上興一郎「横浜の海：新編武蔵風土記稿の世界」(『横浜市歴史博物館紀要』(3) 横浜市歴史博物館 1999 [K06.1/48/3])
- ◆白井哲哉「地誌調所編纂事業論：『新編武蔵国風土記稿』を中心に」(『日本近世地誌編纂史研究』白井哲哉著 思文閣出版 2004[291NN/171])
- 『八王子千人同心の地域調査：武蔵・相模の地誌編さん』八王子市郷土資料館 編 八王子市教育委員会 2005 [K291/708]
- ◆\*鶴岡明美「国立公文書館蔵『新編武蔵風土記』挿図についての考察」(『人間文化論叢8』お茶の水女子大学大学院人間文化研究科 2005)